

# スーパーマーケット販売統計調査資料

2019年8月実績 速報版(パネル270)

7月実績 確報版(パネル270)

(2019年9月20日公表)

## 調査資料概要

### 【パネル270社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016年4月実績よりパネル対象企業変更(275社→270社)

### 【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

### 【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

### 【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

### 【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカーリー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

### 【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2019年9月20日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会  
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査  
 2019年8月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	94,933,305	100.0%	99.9%	98.7%
食品合計	86,485,177	91.1%	99.9%	98.6%
生鮮3部門合計	31,745,529	33.4%	98.5%	97.3%
青果	13,417,896	14.1%	96.0%	94.9%
水産	7,953,367	8.4%	100.7%	99.3%
畜産	10,374,266	10.9%	100.3%	98.8%
惣菜	10,606,250	11.2%	101.3%	100.1%
日配	18,627,371	19.6%	100.3%	98.6%
一般食品	25,506,027	26.9%	100.9%	99.8%
非食品	6,298,225	6.6%	101.0%	100.1%
その他	2,149,952	2.3%	100.5%	98.9%

## 地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,635,194	43	100.6%	99.2%
関東地方	34,050,928	73	100.1%	98.9%
中部地方	12,094,816	53	100.3%	99.3%
近畿地方	20,193,968	44	99.6%	98.2%
中国・四国地方	9,526,404	34	97.6%	97.8%
九州・沖縄地方	5,431,995	23	101.3%	99.1%

## 保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	688,281	45	93.0%	94.4%
4~10店舗	4,464,078	78	96.5%	97.4%
11~25店舗	10,319,860	59	99.3%	98.7%
26~50店舗	17,398,851	44	100.3%	98.9%
51店舗以上	62,062,235	44	100.2%	98.8%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	92,052,614
総店舗数 (店舗)	8,001	店舗平均月商 (万円)	11,865
総売場面積 (㎡)	13,301,918	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.1

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2019年9月20日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会  
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査  
 2019年7月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	89,126,159	100.0%	96.9%	95.8%
食品合計	80,552,944	90.4%	97.1%	96.0%
生鮮3部門合計	29,985,242	33.6%	97.7%	96.5%
青果	11,960,208	13.4%	96.1%	95.0%
水産	7,931,270	8.9%	98.4%	97.2%
畜産	10,093,764	11.3%	99.1%	97.7%
惣菜	9,382,904	10.5%	99.9%	98.5%
日配	17,521,543	19.7%	96.2%	95.1%
一般食品	23,663,254	26.6%	95.9%	95.1%
非食品	6,122,167	6.9%	94.6%	94.0%
その他	2,451,097	2.8%	97.7%	97.2%

## 地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,278,313	43	96.9%	95.8%
関東地方	33,165,078	73	96.8%	95.8%
中部地方	10,853,181	53	97.3%	96.0%
近畿地方	18,994,869	44	97.5%	96.1%
中国・四国地方	8,861,213	34	93.7%	93.7%
九州・沖縄地方	4,973,506	23	98.3%	96.9%

## 保有店舗数別集計

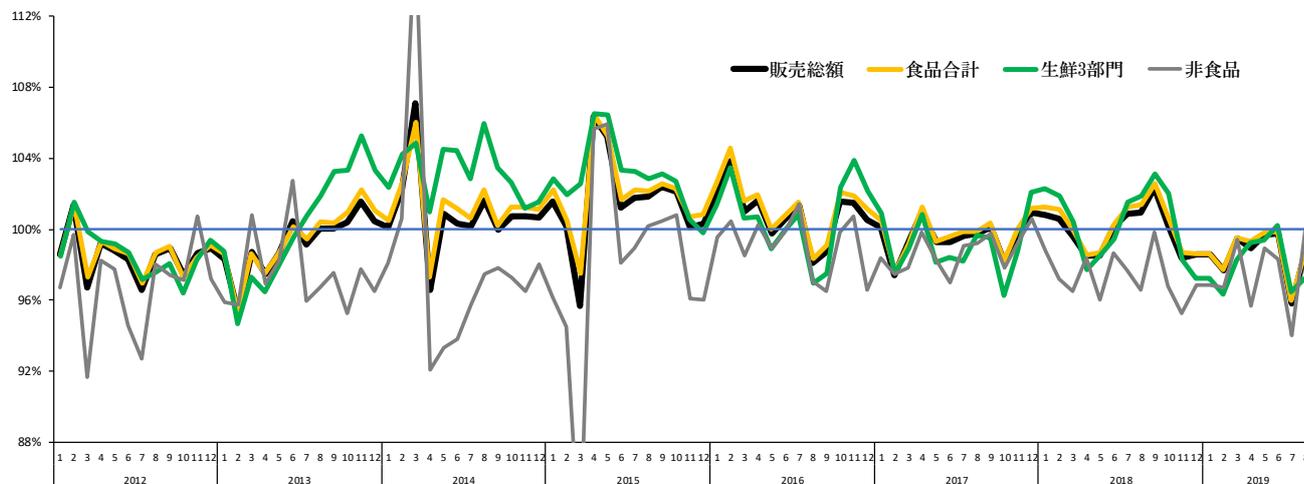
保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	622,919	45	90.8%	91.9%
4~10店舗	4,191,059	78	93.8%	94.7%
11~25店舗	9,341,500	58	96.1%	95.7%
26~50店舗	16,132,389	45	97.1%	95.9%
51店舗以上	58,838,291	44	97.2%	95.9%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	86,505,732	
総店舗数 (店舗)	8,003	店舗平均月商 (万円)	11,137	
総売場面積 (㎡)	13,296,369	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.7	

※売上高は税抜金額

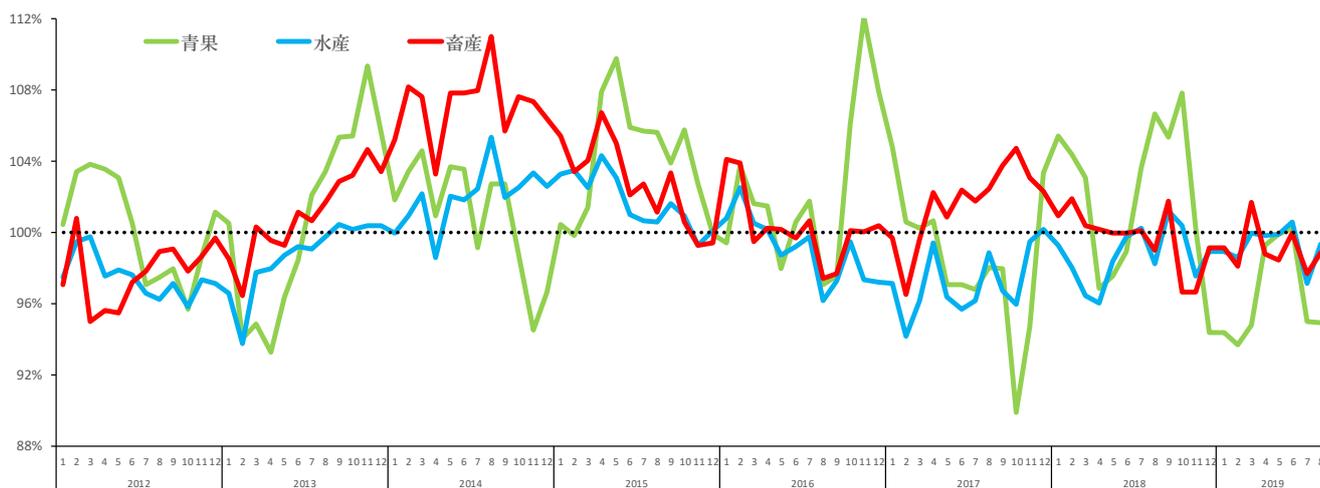
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

# スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2012年1月～

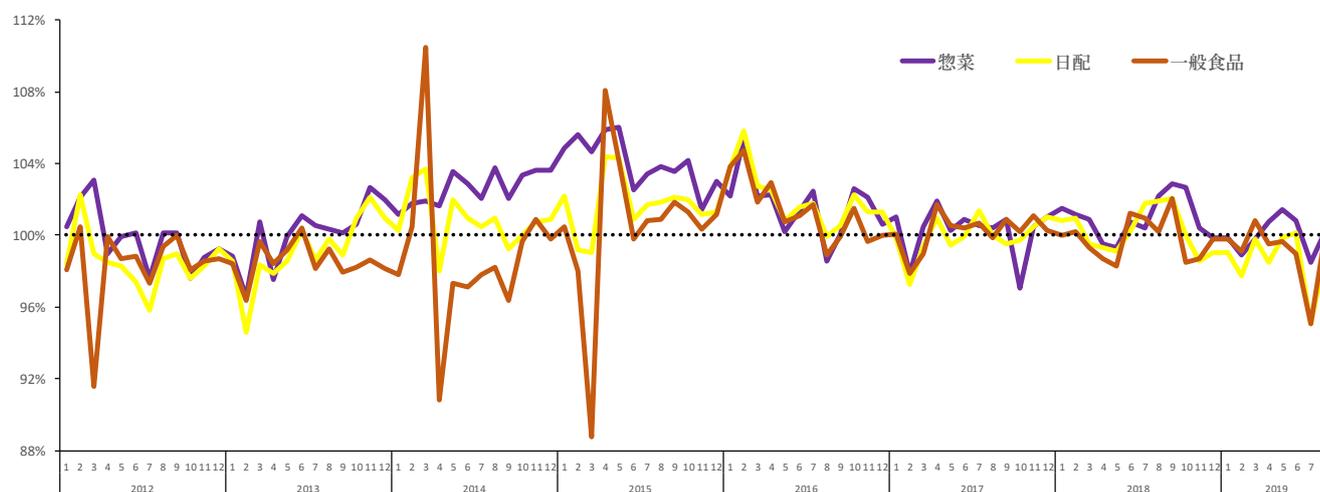
## 総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



## 青果・水産・畜産



## 惣菜・日配・一般食品



※2019年8月実績は速報値

## 2019年8月エリア別気候状況

### 気温の特徴：東日本でかなり高く、沖縄・奄美で高かった

上旬：東・西日本でかなり高く、北日本と沖縄・奄美では高かった。

中旬：東日本でかなり高く、西日本では高かった。

下旬：西日本でかなり低く、北日本では低かった。

2018年8月との比較：上旬は北日本や東日本で高く、中旬は九州を除いて高く、下旬は全国的にかなり低かった。

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2019年8月			2018年8月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	1.6	-0.3	-1.3	-0.7	-1.8	-0.4	2.3	1.5	-0.9
東北地方	2.9	2.0	0.0	-0.1	-1.0	1.4	3.0	3.0	-1.4
関東甲信地方	2.8	2.0	0.0	1.8	-0.2	2.3	1.0	2.2	-2.3
北陸地方	2.5	2.2	-1.1	0.9	-0.8	2.2	1.6	3.0	-3.3
東海地方	2.3	1.8	-0.2	2.6	-0.1	2.0	-0.3	1.9	-2.2
近畿地方	2.1	1.5	-1.0	1.3	0.0	2.0	0.8	1.5	-3.0
中国地方	1.8	1.3	-1.3	1.4	0.2	2.7	0.4	1.1	-4.0
四国地方	1.0	0.7	-1.3	1.5	-0.2	1.7	-0.5	0.9	-3.0
九州北部	1.3	0.6	-1.7	1.7	1.2	2.4	-0.4	-0.6	-4.1
九州南部・奄美地方	0.8	0.2	-0.3	0.9	0.2	0.7	-0.1	0.0	-1.0

#### 平年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

#### 前年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

### 日照時間の特徴：西日本と沖縄・奄美では、日照時間が少なかった

上旬：東日本でかなり多く、北・西日本で多かった。

中旬：北日本太平洋側と西日本、沖縄・奄美で少なかった。

下旬：東日本日本海側と西日本でかなり少なく、北日本と東日本太平洋側では少なかった。

2018年8月との比較：上旬は東日本でやや多く、下旬は北海道を除いてかなり少ない日照時間となった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2019年8月			2018年8月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	120	74	81	137	65	51	-17	9	30
東北地方	147	102	76	91	126	72	56	-24	4
関東甲信地方	155	93	68	117	120	122	38	-27	-54
北陸地方	159	108	57	101	114	85	58	-6	-28
東海地方	145	95	71	138	101	119	7	-6	-48
近畿地方	135	94	56	119	113	119	16	-19	-63
中国地方	127	88	53	136	114	119	-9	-26	-66
四国地方	118	79	34	133	92	114	-15	-13	-80
九州北部	155	93	68	147	128	119	8	-35	-51
九州南部・奄美地方	101	66	66	124	87	101	-23	-21	-35

#### 平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

#### 前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~49%

### 降水量の特徴：北日本と東日本日本海側では、降水量が多かった

上旬：北日本日本海側では多かった。一方、東日本と西日本日本海側では少なかった。

中旬：全国的に多く、西日本太平洋側ではかなり多かった。

下旬：東日本日本海側と西日本でかなり多く、北日本と東日本太平洋側では多かった。

2018年8月との比較：上旬は東日本で少なく、中旬は西日本を中心にかなり多く、下旬は全国的に多い降水量となった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2019年8月			2018年8月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	157	159	146	69	268	121	88	-109	25
東北地方	63	85	140	207	179	146	-144	-94	-6
関東甲信地方	30	109	96	97	54	66	-67	55	30
北陸地方	18	135	288	59	130	0	-41	5	288
東海地方	3	145	180	3	100	125	0	45	55
近畿地方	3	372	240	6	51	238	-3	321	2
中国地方	11	140	350	2	0	118	9	140	232
四国地方	75	254	164	13	134	109	62	120	55
九州北部	68	167	432	9	0	39	59	167	393
九州南部・奄美地方	88	185	121	51	93	87	37	92	34

#### 平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

#### 前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~49%

気象庁ホームページ・報道発表資料「8月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年~2010年）の平均

スーパーマーケット統計事務局作成

# スーパーマーケット景気動向調査

2019年9月調査結果（8月実績）  
（2019年9月20日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

## 【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」  
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」  
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

---

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

## 【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

---

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会  
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
オール日本スーパーマーケット協会

## 9月調査（8月実績）結果概況

### 景気判断DIは現状判断下げ止まりも、見通し判断は改善みせず

8月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は、前月から+2.2の40.5、見通し判断は前月から-0.9の36.5となり、現状判断DIはわずかな改善となったが、見通し判断は小幅な悪化となった。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共に前月に比べ大幅に上昇したものの、いずれもマイナス圏での推移となった。お盆商戦で高単価商品が好調だったことで、客単価DIが上昇し、わずかながらプラスに回復したものの、来客数DIが二桁マイナスとなったことが影響している。

カテゴリー動向調査では、前年天候不良により高騰した青果相場の反動により-22.3と大きくマイナスとなった。上旬から中旬にかけては気温が上昇し、夏物商材が好調となったことで、前月気温の低下により低迷した日配DIや一般食品DIを中心に大幅上昇をみせた。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、大幅な悪化となった前月から、現状判断こそやや下げ止まりをみせているが、見通し判断はさらに悪化する結果となった。そのため、長期傾向みた周辺地域景気判断DIの下降トレンドは継続している。（長期傾向についてはp11参照）

中旬までは夏らしい気候がもどったものの、お盆時期の台風接近による影響を受けた地域も多かった。特に夏場は、台風や豪雨による来客数や帰省客動向、気温の変化による売れ筋商品の変化が大きく、スーパーマーケットが受ける影響は大きい。近年夏の天候が安定しない状況が続いており、自然現象とはいえ、それに対する防衛策や抵抗力の構築が急務となっている。

#### 景況感調査

##### 現状判断

<b>景気判断DI</b> 当月：40.5 (+2.2) 前月：38.3	<b>消費者購買意欲DI</b> 当月：40.2 (-0.4) 前月：40.6	<b>周辺地域 競合状況DI</b> 当月：38.6 (+0.3) 前月：38.3	<b>店舗周辺地域 景気判断DI</b> 当月：42.0 (-0.7) 前月：42.7
--	---	---	---

##### 見通し判断

<b>景気判断DI</b> 当月：36.5 (-0.9) 前月：37.4	<b>消費者購買意欲DI</b> 当月：37.2 (-2.8) 前月：40.0	<b>周辺地域 競合状況DI</b> 当月：38.4 (+0.4) 前月：38.0	<b>店舗周辺地域 景気判断DI</b> 当月：39.8 (-1.8) 前月：41.6
--	---	---	---

#### 経営動向調査 経営状況

<b>売上高DI</b> 当月：-13.3 (+9.7) 前月：-23.0	<b>客単価DI</b> 当月：0.3 (+8.1) 前月：-7.8	<b>来客数DI</b> 当月：-15.1 (+4.6) 前月：-19.7	
<b>収益DI</b> 当月：-7.1 (+11.0) 前月：-18.1	<b>販売価格DI</b> 当月：1.1 (-0.4) 前月：1.5	<b>生鮮品仕入原価DI</b> 当月：-0.7 (-1.1) 前月：0.4	<b>食品仕入原価DI</b> 当月：3.3 (+0.5) 前月：2.8

#### カテゴリー動向

<b>青果DI</b> 当月：-22.3 (-0.8) 前月：-21.5	<b>水産DI</b> 当月：-3.7 (+7.3) 前月：-11.0	<b>畜産DI</b> 当月：-6.8 (+8.1) 前月：-14.9	
<b>惣菜DI</b> 当月：-4.1 (+3.0) 前月：-7.1	<b>日配DI</b> 当月：-9.0 (+11.6) 前月：-20.6	<b>一般食品DI</b> 当月：-5.6 (+18.7) 前月：-24.3	<b>非食品DI</b> 当月：-5.1 (+10.8) 前月：-15.9

※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

# 結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

## 1. 売上高DI

マイナス幅を縮小するも二桁マイナスが続く

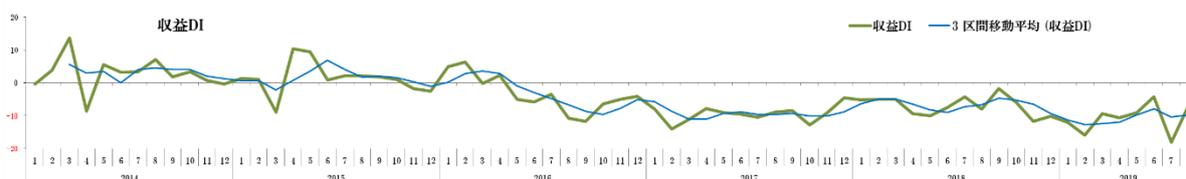
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	27.3	47.0	16.9	7.7	1.1	-23.0
売上高 (当月)	16.7	39.7	25.0	17.3	1.3	-13.3



## 2. 収益DI

マイナス圏での推移ながらマイナス幅を縮小

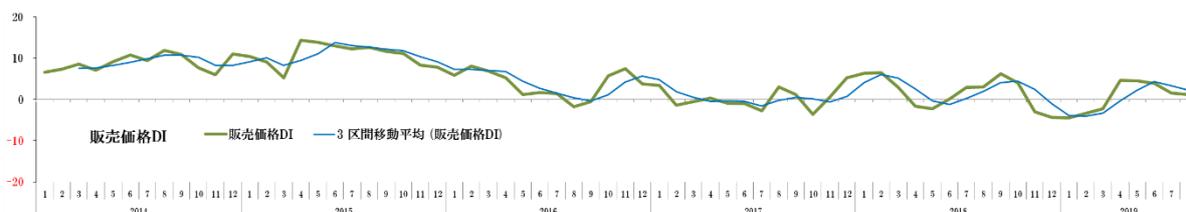
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	18.9	48.3	20.6	10.6	1.7	-18.1
収益 (当月)	12.5	34.2	28.3	19.1	5.9	-7.1



## 3. 販売価格DI

小幅なプラス水準を維持

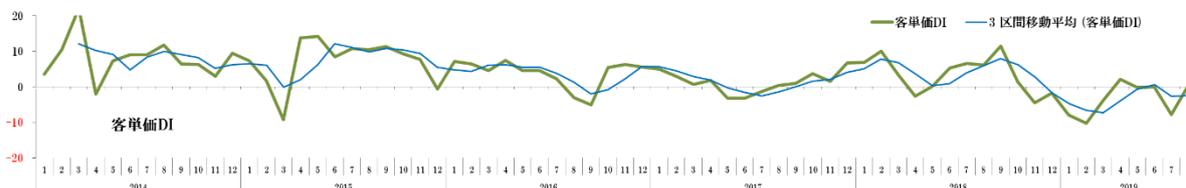
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	1.1	16.0	58.6	24.3	0.0	1.5
販売価格 (当月)	0.0	18.7	58.7	21.9	0.6	1.1



## 4. 客単価DI

わずかなプラスに転換

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	2.7	39.3	44.3	13.7	0.0	-7.8
客単価 (当月)	2.5	22.3	46.5	28.7	0.0	0.3



## 5. 来客数 DI

二桁マイナス水準での低迷が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	19.7	49.2	21.9	8.7	0.5	-19.7
<b>来客数 (当月)</b>	<b>14.0</b>	<b>47.1</b>	<b>25.5</b>	<b>12.1</b>	<b>1.3</b>	<b>-15.1</b>



## 6. 生鮮仕入原価 DI

わずかなマイナス圏

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	3.9	18.4	50.3	26.8	0.6	0.4
<b>生鮮仕入原価 (当月)</b>	<b>2.7</b>	<b>20.7</b>	<b>54.0</b>	<b>22.0</b>	<b>0.7</b>	<b>-0.7</b>



## 7. 食品仕入原価 DI

プラス圏で底堅い推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	5.0	13.3	47.8	33.3	0.6	2.8
<b>食品仕入原価 (当月)</b>	<b>2.0</b>	<b>11.3</b>	<b>61.6</b>	<b>21.9</b>	<b>3.3</b>	<b>3.3</b>

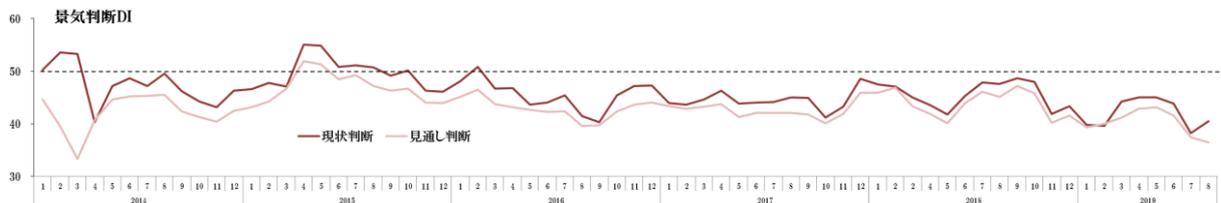


## II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

### 1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断はやや改善も、見通し判断はさらに悪化

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	5.5	41.0	48.6	4.9	0.0	38.3
<b>【現状】景況判断 (当月)</b>	<b>5.7</b>	<b>32.3</b>	<b>56.3</b>	<b>5.7</b>	<b>0.0</b>	<b>40.5</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	8.7	37.2	49.7	4.4	0.0	37.4
<b>【見通し】景況判断 (当月)</b>	<b>7.6</b>	<b>43.3</b>	<b>44.6</b>	<b>4.5</b>	<b>0.0</b>	<b>36.5</b>



### 2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は横ばいも、見通し判断はさらに悪化

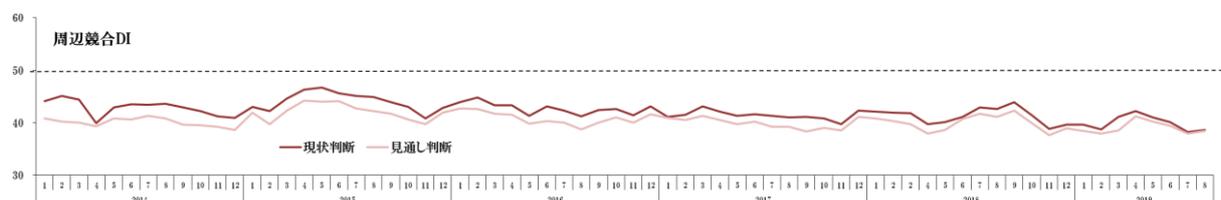
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	2.2	37.7	55.7	4.4	0.0	40.6
<b>【現状】購買意欲 (当月)</b>	<b>4.4</b>	<b>36.1</b>	<b>53.8</b>	<b>5.7</b>	<b>0.0</b>	<b>40.2</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	3.3	36.6	56.8	3.3	0.0	40.0
<b>【見通し】購買意欲 (当月)</b>	<b>5.7</b>	<b>42.4</b>	<b>49.4</b>	<b>2.5</b>	<b>0.0</b>	<b>37.2</b>



### 3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通しともほぼ横ばい推移

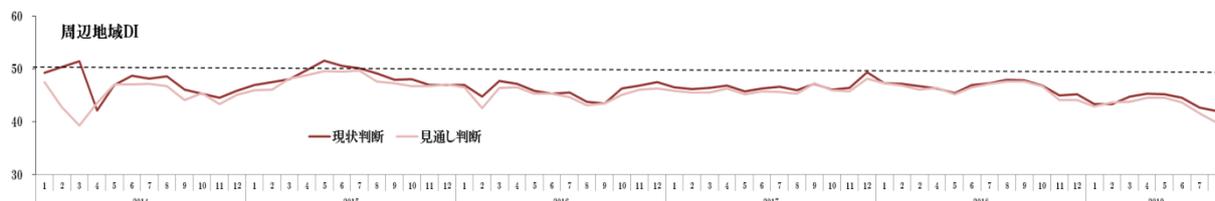
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	8.2	32.8	56.8	2.2	0.0	38.3
<b>【現状】競合状況 (当月)</b>	<b>6.3</b>	<b>34.8</b>	<b>57.0</b>	<b>1.9</b>	<b>0.0</b>	<b>38.6</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	8.7	32.8	56.3	2.2	0.0	38.0
<b>【見通し】競合状況 (当月)</b>	<b>5.1</b>	<b>38.0</b>	<b>55.1</b>	<b>1.9</b>	<b>0.0</b>	<b>38.4</b>



#### 4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

見通し判断の悪化が目立つ

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.1	28.7	68.5	1.7	0.0	42.7
【現状】地域景気 (当月)	1.3	29.9	68.2	0.6	0.0	42.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	2.2	30.4	66.3	1.1	0.0	41.6
【見通し】地域景気 (当月)	3.2	35.7	59.9	1.3	0.0	39.8



#### ・中核店舗周辺地域景気判断 DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

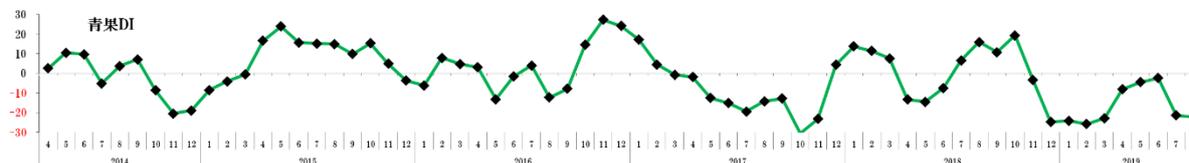
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年8月には現状判断DIは42.0まで低下した。



### Ⅲ. カテゴリー別動向

#### 1. 青果DI：-22.3（かなり不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果(前月)	25.6	44.8	20.3	8.7	0.6	-21.5
<b>青果(当月)</b>	<b>28.4</b>	<b>44.6</b>	<b>15.5</b>	<b>10.8</b>	<b>0.7</b>	<b>-22.3</b>



前年猛暑や台風被害などの影響で野菜相場が高騰した反動で、葉物類を中心に単価が下落し大幅なマイナスとなった。上旬は気温が高く、ネギや大根などの薬味用野菜が好調となった。下旬は前年比で気温が低くサラダ商材であるトマトやレタスの動きが悪かった。旬のトウモロコシは動きがよかった。果物類では、前年猛暑で売上の伸びたスイカ、今年は出荷の遅れなどでブドウ、梨、桃が総じて不調となった。輸入果物ではバナナが入荷不足、キウイフルーツは前年 CM 特需の反動で不調となった店舗が多い。

#### 2. 水産DI：-3.7（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産(前月)	12.1	39.9	30.1	15.6	2.3	-11.0
<b>水産(当月)</b>	<b>8.1</b>	<b>31.1</b>	<b>33.1</b>	<b>23.0</b>	<b>4.7</b>	<b>-3.7</b>



前年さんまは漁獲量がやや回復したが今年は不漁で入荷が少なく、特に不調となった。生イカも入荷が少なく苦戦した。気温の上昇により刺身類の動きがよかったが、お盆時期の台風による帰省客減少の影響を受けた地域もみられた。アニサキス報道の落ち着きにより、カツオには回復傾向がみられた。入荷が安定している鮭は好調だが、丸魚は入荷が少なく不調となった店舗が多かった。

#### 3. 畜産DI：-6.8（やや不調）

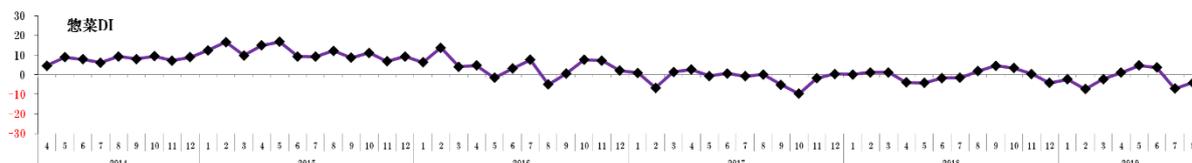
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産(前月)	20.2	35.3	28.9	15.0	0.6	-14.9
<b>畜産(当月)</b>	<b>11.5</b>	<b>33.8</b>	<b>28.4</b>	<b>23.0</b>	<b>3.4</b>	<b>-6.8</b>



牛肉は気温上昇により焼肉やステーキ用は好調であるが、気候条件によりバーベキュー用商材は好不調がわかれた。お盆期間は和牛の動きがよく、それ以外は輸入牛が好調となった店舗が多い。相場の高めに推移した豚肉は冷しゃぶ用などは引き続き動きがよいが、全体としては前年並みとなった。鶏肉は相場の上昇により回復傾向がみられた。ハムやソーセージなどの加工肉は好不調がわかれている。

#### 4. 惣菜DI：-4.1（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	9.4	34.7	35.3	15.9	4.7	-7.1
<b>惣菜（当月）</b>	<b>7.4</b>	<b>35.8</b>	<b>28.4</b>	<b>22.3</b>	<b>6.1</b>	<b>-4.1</b>



上旬は気温上昇によりサラダ関連や、焼き鳥などのおつまみ商材、涼味麺商材などの動きがよかった。高温となった地域では、てんぷらや揚げ物類が敬遠されたとのコメントもみられた。お盆時期の寿司類やごちそうメニューの提案により高単価商品の動きがよかった一方で、オードブルは不調とする店舗が多かった。台風による帰省客減少の影響を受けた地域もみられた。

#### 5. 日配DI：-9.0（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	26.7	38.4	26.2	8.1	0.6	-20.6
<b>日配（当月）</b>	<b>12.2</b>	<b>34.7</b>	<b>32.7</b>	<b>17.7</b>	<b>2.7</b>	<b>-9.0</b>



地域により若干差はみられるが、中旬までは前年比で気温が高く、アイス、飲料など涼味系麺類や豆腐などの夏物商材の動きがよかったが、下旬に気温が低下すると伸び悩んだ店舗が多かった。和日配で納豆に加え、梅干しなどに前年特需の反動もみられた。洋日配ではバターやチーズなどの乳製品が好調となった。台風が接近した地域ではパンの売上に特需があった。

#### 6. 一般食品：-5.6（やや不調）

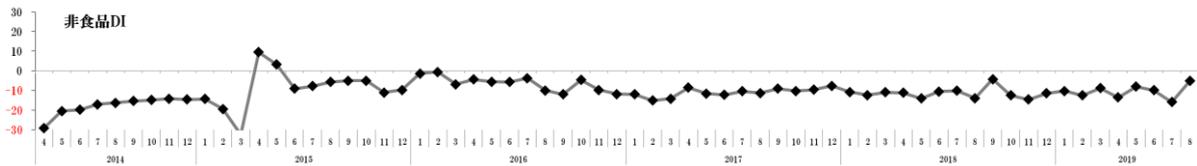
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	32.6	37.2	25.6	4.1	0.6	-24.3
<b>一般食品（当月）</b>	<b>8.8</b>	<b>32.0</b>	<b>34.0</b>	<b>23.1</b>	<b>2.0</b>	<b>-5.6</b>



地域により若干差はみられるが、中旬までは前年比で気温が高く飲料やそうめんなどの乾麺類を中心に、涼味関連商材、熱中症対策食材も動きが好調となった。前年猛暑の影響で不調となった調味料、野菜価格高騰により不調となったドレッシングは売上が回復した。酒類は気温差により好不調が分かれている。競合他業態との価格競争を指摘するコメントがみられた。

## 7. 非食品DI：-5.1（やや不調）

回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	22.0	33.5	32.3	10.4	1.8	-15.9
非食品（当月）	10.6	30.3	33.1	21.1	4.9	-5.1



8月中旬から増税前のセールを早めに実施し、売上が好調となった店舗がみられた。品薄報道がある紙類（トイレtpーパー、ティッシュペーパー）は動きがよかった。熱中症対策商品を中心に制汗剤、日焼け止め、殺虫剤などの夏物商材の動きがよくなった店舗が多い。ホームセンターやドラッグストアなどとの価格競合の影響が大きくなっており、売場を縮小する店舗もみられた。

### カテゴリー別DIによる好不調判断

かなり好調：～20      好調：20～10      やや好調：10～0  
 やや不調：0～-10      不調：-10～-20      かなり不調：-20～

### 2019年9月調査（8月実績）キーワードTOP3

1. 上旬気温上昇・下旬低下
2. 青果相場安（前年高騰の反動）
3. お盆時期の台風の影響による帰省客動向

### （参考）2018年9月調査（8月実績）キーワードTOP3

1. 猛暑
2. 青果相場高騰
3. 来客数減少

### スーパーマーケット景気動向調査 集計数

8月実績速報版      158社  
 7月実績確報版      183社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 [tokei@super.or.jp](mailto:tokei@super.or.jp)